

## 第2回 深谷市新庁舎基本計画検討有識者会議 議事録

1. 開催日時 平成27年7月16日(木) 9:30～11:30
2. 開催場所 深谷市役所本庁舎3階委員会室
3. 出席者 深谷市新庁舎基本計画検討有識者会議委員  
木藤久丹江(木藤税理士事務所)  
高野一吉(深谷商工会議所 会頭)  
堤洋樹(前橋工科大学 准教授)  
葉山香織(アーバンスタイル研究所、ハヤマ建築設計事務所)  
松村俊英(建築保全センター 客員研究員)

### 事務局

- 新井進(企画財政部 部長)
- 飯野勇人(企画財政部 次長)
- 田嶋英生(企画財政部 公共施設改革推進室 室長)
- 穂山光昌(企画財政部 公共施設改革推進室 室長補佐)
- 金井博(企画財政部 公共施設改革推進室 新庁舎整備係長)
- 玉井一平(企画財政部 公共施設改革推進室 公共施設改革推進係長)
- 羽二生直之(企画財政部 公共施設改革推進室)
- 富田佐知子(企画財政部 公共施設改革推進室)
- 長澤玲(企画財政部 公共施設改革推進室)
- 白井達雄(株式会社松田平田設計)
- 熊田義定(株式会社松田平田設計)

## 4. 内容

### 1. 開会

### 2. あいさつ

(委員長からのあいさつ)

### 3. 議事

#### 《報告事項》

##### (1) 第1回会議で頂いた意見について

事務局：資料-1の説明。

委員：ICT化とはどのようなことか。

事務局：ICT化とはコンピュータなどの情報通信技術を利用して、証明書発行などを自動化するなどして事務の効率化を図ることです。

#### 《協議事項》

##### (1) 新庁舎に求められる役割と機能について

事務局：資料-2、資料-3の説明。

委員長：この委員会は新庁舎の検討が主になるが、連携をどうするかが重要である。例えば、資料-2のp1にあるBCPであるが、新庁舎そのものをどうするかというのも重要であるが、当然、災害が起こった際に他の施設とどのように連携をとるかという記述が無いと物足りなく感じられるので、新庁舎では連携をどのように考えるのかを今後、検討して頂きたい。

市民サービスについても、新庁舎でどういったサービスを提供するかということもあるが、例えば深谷市であれば、公民館があるので、そこでの連携をどうするかで、サービスの中身が変わってくる。

自然環境にやさしい庁舎としても、市としての目標に対して、庁舎がどうするのかを数値目標で入れてもらいたい。

いずれにしても、全体から、具体的に新庁舎の機能を決めていかないと、最後に+αとして何が必要かも見えてこないなので、今後検討をお願いしたい。

事務局：資料-4の説明。

委員長：庁舎には最低限必要な機能や、構造的にどの程度丈夫であるかというものが決まっているため、動かさない部分が多い。但し、市民サービスや付加価値をどうするべきか、ということは検討ができる。ここを中心に今日は議論をしたいと思っている。

委員：これから設計に入るにあたって、庁舎というものがどういう役割であるかを話し合っていきたいと思っている。全体としての他の施設との連携といったこともあるが、庁舎の役割を明確にすることによって設計に入る際にスムー

ズにいくと思う。資料の中に記載されている内容は法的に決まっているものもあるので、それは設計側が分かっていることであり、考慮しなくてはならない内容であるので、そういったことよりも深谷市としてどういったものを望んでいるのか、どういう方向にしたいのかというのが一番重要である。

例えば、市庁舎に来て深谷の街がどのような街であるか分かるようなものであるとか、「花のまち・植木のまち」と言いながら、庁舎にある中庭が暗かったりする。

そういうのも例えば、市にあるいろいろな植木の人たちがそこに来て、そこが展示場になり、いつもそこが綺麗な状態で保たれていて、深谷のブランディング、例えば、大宮では大宮盆栽という名前が付けられていて有名になっているが、大宮盆栽の盆栽は深谷の盆栽を買って作り上げているものもある。深谷の盆栽は、すごく安いブランディングが出来ていない為に周知されていないことがある。そういった深谷市とはどういった街なのかの周知を、ブランディングを兼ねて出来る様なスペースがあるとよい。

委員長：場所の準備だけでは人が来ないこともあるので、一緒にカフェもセットで整備するなど単体の目的だけでなく複数合わせて行うことを考えていかないと、なかなか上手くいかないのではないと思われる。何か軸を作ってそれに合わせて他に何か組合せができないかであるとか、こうやったらもっと効果的ではないかという話をして頂ければよいと思う。

委員：市民利用スペースでイベントを開催するであるとか展示スペースといったことが書かれているが、どのぐらいの規模でやるかという当初の規模がないと、資料の中には駐車場をどうするかということが入っていないので、大勢の人が集まると駐車するスペースが無いということになってしまう。立体駐車場にするであるとか、市庁舎が文化会館に近ければ文化会館の駐車場に止めることもできるが、具体的に駐車場のスペースがどのくらいあるのかが分からないと、どんなイベントができるのか提案しにくい。

委員長：駐車場と人の集まりについては地方に行くとき必ず言われることであるが、やはり逆に車を使わない社会を求めなくてはいけないということがあればどちらをとるかという話になる。方向が決まっていなくて単に駐車場を増やして庁舎の周りが全部駐車場ということになるのもどうかと思われる。このあたりについても、どのように使うのかというところからスタートする。これは、この場でいろいろな意見を出すのは難しいので、案というものがあって、それに対してこれでいけるかどうかということの検討のほうがよい。

委員：庁舎の内部空間だけでなく、駐車場を含めた周りの外部空間が建物と連携して

いくのかということもあった方がよい。スペースがまだどのくらいであるとかは決まっていないので、そんなところかと思われる。

委員長：こういうことをやる為には、このくらいの駐車場が必要であるという話もできるので、そういう提案にすれば進むと思われる。

ぜひお願いしたいのは、民間の駐車場がたくさんあると思うので、そこを市役所を利用した人は無料にするなど使いやすくすれば、駐車場自体はあまり増やさなくても良いと考えられる。その為には、民間の駐車場がどこにあるのかを押さえてはいけない。

委員：駅と市街地から市役所は非常に近い、出来れば歩いてきてもらえると良い。新庁舎と市街地の間には国道が走っている、これはある意味川が走っていると同じ事である。スムーズに歩行者が市庁舎側に渡れるような工夫があれば、歩いてくる人もずいぶんいると思われる。そうすれば、先ほどの様な事は大体解決する。

委員長：そのことについては、いろいろな方法があるが、そこを検討してもらおうとしても、例えば駐車場を駅の方に準備して、そこから歩いてきてもらうことで、一緒に合わせて考えられる。その為には、歩いてきやすいような、再開発にも掛っているのでその辺が検討の一つとなる。  
その具体的な方向性を、2、3案出してもらえないと検討しづらい。

委員：現在、中心市街地の再開発（中央土地区画整理事業）をやっていて、道を広くしている。私が小さい頃は、旧中山道がもっと商店街で賑わっていた。それが今は閑散としてしまっている。  
駐車場を駅の方に作るとすれば、庁舎まで人を歩かせれば人の流れができるので、それにより全体の街づくりに連動をさせていければよいと思う。

委員：現在、商店街の駐車場はあるが、不法駐車により大変困ったことがあった。その為、大っぴらに商店街の駐車場と書きたくないと思っている商店街の人もいる。地元の商店街の人の意見を聞いてみないと難しいと思う。

委員長：駐車場については、有料にするという方法もある。そうすれば不法駐車はしづらくなる。但し、市役所を利用した方は無料にするなどのやり方がある。最近、浜松とかがそうであるが、市役所の駐車場を有料にしている流れがある。

委員：駅からのにぎわい通りができています。そこを徹底して綺麗にして深谷に来ていただくようにしている。ただ、そこを通過して市役所に来る際に国道を、お年寄りであ

るとか、体の不自由な方がスムーズに渡れるようにしないと、積極的に市役所に来て、情報を得ていただきたいということが出てこないと思う。その為、国道ということのを頭に入れていただきたい。

委員長：できるかどうかは別として、2階から市役所に入る方法などがあると思われる。

委員：いろいろな方法はあると思われる。お金もかかることなので難しいとは思いますが、考え方の一つとして、便利さということを考えてもらっていただきたい。

委員長：駅との連携は不可欠である。

事務局：駅からの連携については、現在、区画整理をしており、西側に22mの道路を計画している。さらに駅の中央から、にぎわい通りとして庁舎まで8mの道路を通す計画となっている。庁舎前の国道をどうするかは、検討をしていきたい。イベント時の駐車場の関係については、現状、イベント時は周辺の施設や小学校などを利用させてもらい対応している。その為に、立体駐車場を作るというのは現実的ではないと考えている。

委員：市民利用スペースを広くすると、違った形で市民の方が訪れるので、駐車スペースが多く必要となる。そのあたりの工夫が必要。

委員：電車で来られない人もいる。コミュニティバスが1時間に1本しかない地域もある。駅に近い方や電車に乗れる人はよいが、庁舎には多くの方が車で来ることを考えることが必要である。

委員：深谷市には3年後にアウトレットができる。商店街は、アウトレットに訪れた人を呼び込みたいという思いがある。深谷市に人を呼び込む為の魅力的なものをこれから作っていけるように現在、商店街としても話しを進めている。観光で訪れた人たちが深谷の街の中に流れ込みやすい方法を何か考えていきたいと思っている。

委員長：駐車場対策については検討していく必要がある。

現状の庁舎の市民利用スペースとして、ふっかちゃんグッズショップがあるが、これこそ駅前販売したり、コンビニに置いたりした方が良いと思われる。そういったことを1つ1つ整理すると、必要な面積を絞って変わりにこういうことができるという話ができると思う。食堂については、庁舎の地下にあることが多いが、利用者が誰もいなく一般のかたも利用していないことが多い。最近では、一番いいところに設置して、一般のか

たも使ってもらおうという流れができています。そうすることによって、あまり使われていないスペースを有効活用して市民のかたにも喜んでもらうという流れができると思う。

市役所は休日閉まるので、コンビニや売店のお店の方や利用者が困ってしまう。その為、コンビニを外に開いておくことにより、使いやすくなり結果、人も集まってくる流れができれば別の展開も考えられる。

行政サービスを受ける人たちだけが来るのであれば、その面積だけでよいことになってしまうので、庁舎に、今こういうものが足りないであるとか、こういうスペースやサービスがあれば良いというような意見はありますか。

委員：先日、大宮区役所を見学してきたが、待合スペースは広がったが、ATMや証明書の自動発券機の位置が分かりづらかった。しかし、総合案内とは別に、入口付近に案内係が2名いて目的地まで連れて行ってくれるようであった。それはすごく安心してほっとした。新しい庁舎になれば、全体が見渡せて案内係がいなくても大丈夫になるかもしれないが、人と人が触れ合える温かさを感じられるサービスがあれば心が和むと思う。

委員長：今の指摘はすごく重要で、きちんとそこに人を付ければ、大きくする必要は無いと思っている。仮に建物が使いづらくても、ちゃんと代わりのことをすれば使いやすくなるということである。但し、人員を増やすことにもなるので、検討が必要である。  
今までは、こういうサービスが必要でその為には何㎡必要ですということであったが、極端に言えば、先ほどの話は総合案内がいらないともいえる。

委員：窓口という場所を設けると、係の人はそこを動けなくなる。例えばスーパーやホームセンターは商品の場所を聞いたときにその場所まで連れて行ってくれる。それと同じようなことが市役所でも出来れば良いと思う。

委員：案内係を充実させるというのは、杉並区で実践をしているが、コストがどの程度かかっているのかが気になる。  
資料4のp3にあるものは、今のトレンドの市庁舎であるが、実際に地元に住んでいる人はこういったものが欲しいと思っているのか。

委員：長岡市については、冬は雪に閉ざされているので、こういった広く温かいスペースがあると市民がほっとする。但し、長岡市が豪華なのは、冬が厳しいからその分冬場の間、雪に閉じ込められているので、その分サービスしようということだと思ふ。

事務局：我々も長岡市は視察を行った。p3の上の写真は、3階のデッキとなっている。ここには小学校の遠足で訪れることもある。体育館もあり、地域の特性に合わせた施設であると我々は理解している。これを作りたいという意味でここに載せたわけではなく、こういった使い方もできるという参考で載せている。

委員長：庁舎の建て替えではアオーレのような空間が欲しいといった意見が出てくるが、本当に必要かという話がある。

快適な空間を準備すればするほど市役所に来て市役所から帰っていき、商店街に人が流れなくなる可能性がある。そこも含めて大きい空間が必要かどうかなどを詰めていきたいと考えている。そうしないとどういった市役所にするのか形が決まらない。

私もここを見に行っただが人が少なかった、一時期の利用のために大きな空間を準備するのかということも検討しないといけない。

長岡で気に入っているのは、議会棟が1階でガラス張りとなっている。これは、議会を公開するという意味ではすごく良いと思っている。

良いところと悪いところがあると思うので、良いところだけを上手く持ってこられるように参考にして検討できればと思っている。

委員長：ボランティア交流センターの資料を付けた意図はなにか。

事務局：交流・協働といった機能を本庁舎の中に設けるべきか否かという議論をする際に、現庁舎の近くに類似機能があることを知っていただいて、その上で、類似機能が近くにあるので本庁舎内に同じような機能は不要という考えや、庁舎に人を呼び込むという側面では、庁舎内にこういった機能を設け、ボランティアに限らずにNPO法人などの団体も利用できるようにするなどの考え方ができると思われるので、その為の参考として添付した。

委員長：これだけ立派な施設がもうあるので、ここを上手く使えば、あえて市役所に準備する必要がないかもしれない。

ボランティア交流センターはボランティアの方しか使えないのか。

事務局：ボランティアルームの使用は、ボランティアのみで一般のかたは使えないという制約がある。

委員長：おそらくそれは、補助金の話であるとか色々部署の話であるとかがあると思われるが、そこから開放すべきである。上に会議室もあるのでそのあたりを上手く使えば会議室も減らせるということにも繋がっていく。

事務局：現状、この会議室は市役所の研修などに使用している。他の団体も使用している。

委員長：こういった施設と連携をとることにより、その分スペースを減らすことができ、結果庁舎の面積を減らすことができる。面積を大きくすると維持費が多くかかってしまう、もちろん建てる時にもかかるので、その分を減らしたら、ほかに回すことができる。

委員：現状の食堂は一般のかたの利用は多いのか。

事務局：ほとんど無いです。

委員：一般のかたが利用しないのであれば職員用として小さく作った方がよい。

委員長：軽食程度の喫茶店の様なものにして、市民のかたも一緒に使ってもらおうというような流れであると思われる。

休日利用を考えると区画をどう作っていくかという話にもなる。

上手く切り分けないとこういう機能が欲しいといっても実際に使えないということもあるので、設計の話であるが、そこまで検討しないといけない。

委員：本当は、職員の方にも外に出ていただきたいが、時間的な制約などの問題で中で食べることが多い。

委員長：駅との連携ができれば、職員も外に行きやすくなるだろう。

委員：にぎわい通りから上がって2階で庁舎と行き来ができれば、高い位置から街並みをみることができるというのが良い。

委員長：庁舎の面積を最小限にすることができれば、その分でそういった連携の為の施設を作ることができるかもしれない。

委員長：資料4、p1の障害者施設の特産品の販売、ふっかちゃんグッズショップについてはどうか。

委員：ふっかちゃんグッズショップは街の中や商店の中にも何軒かある。

委員長：付屬的に、例えばコンビニを入れるのであればそれとセットということで充分であるといえる。



事務局：ふっかちゃんグッズショップは授産品販売の一環として行っている。また、来庁舎から市役所でふっかちゃんグッズが買えないのかという声もあったので行っている。

委員長：障害者施設の授産品の販売が発展すると福祉カフェのようなものになると思われるが、現状と同じ様にするのか、もう少し発展させていくのかということはどうか。

委員：常設というよりもスペースが多目的に使えるようなところがあって、流動的にできる方がよいと思う。

委員：市役所のかたのこういった庁舎になってほしいというようなアンケートはあるのか。

事務局：アンケートはこれから予定している。

委員：ここで毎日働いている方の意見も重要である。

事務局：市でも色々と意見を聞いて固めているところである。今は、いろんな意見を聞く状況である。その中で大きな流れというのは、行政サービスの部分というのはある程度決まっていて、深谷は公民館がそろっているので、そこのタイアップの中で考えていくしかない。地域で出来ることは地域でやらなくてはならない、それは自動であるとかコンビニであるということも少しは出てくるが、そんなに大きくは変わらない。それは最低限支所の方も設けられればいいのか。行政機能をどんどん大きくする必要はない。ただ、街づくりの関係で駅からここまでの街をどうにかしなくてはならない。この庁舎をそれに役立てるといのは一番の目的になると思っている。庁舎に何度も人が来なくても駅と行ったり来たりはさせたい。その為に、外で行って来てもらうことも大事である。

深谷市全体でみると地区毎のセンターはある。そこで地域のちょっとしたことは出来るようになっていく。但し、庁舎には相談機能は必要である。支所では全部のことは分からない為、総合的に考えて必要である。

街づくりと庁舎の関係が一番悩んでいるが、簡単には答えが出ない。

ここで大きなイベントを開くというのはそんなに考えていない。ただ、せっかくなので使えば土日も開いて使うことも考えている。

委員：深谷の三大イベントは、七夕祭り、夏祭り、産業祭である。その時の駐車場というのは必要となる。

委員長：まちとの関係を上手くして欲しいというのを設計に任せることは難しい。

事務局：ある程度市としての考えを出さないと難しいだろう。

事務局：深谷市都市計画マスタープラン、レンガ奨励金パンフレットの説明。

委員長：まちづくりとのかかわりについては次回以降に検討していきたい。

委員長：パネル展示のスペースをどうするのかというのも重要である。但し、パネル展示スペースだけを設けても行く人はほとんどいないので、何かと合わせて計画した方が良い。これについては、他の機能とセットで見せられるような提案を設計の方でもらえれば良いのではないかと思う。

次の中庭も重要である。中庭もただ作るのではなく人を入れ込むこととセットで考える。ただ作るのではなくて作るからには、この様に使うといったことを提案してもらえれば良い。

委員：ソフト関係の話になってしまうが、深谷の庭を作るのにボランティアの方が頑張ってくれている。街並みの花であるとか、緑の保存といったことを100人ぐらいのボランティアの方々が行って、それが上手く機能している珍しいケースといわれている。

中庭を作った際には、ボランティアとの関係も作っていくと市民と繋がっていけると思う。

委員長：中庭をつくっても人は来ないが、ボランティアの方が常時手を入れるというような仕組みを作れば人は来るので、そこで有効活用ができるし別の展開も生まれてくるようなところまでやらないといけないと思う。

委員：お年寄りの方が、することを見つけることで生きがいが出て楽しんでやっている。

委員：花と木の街を象徴するような広場が欲しい。そんなに極端に広くなくても良い。そういったところにお年寄りが集まってもらいたい。

委員長：設計にお願いするときに、単に緑が欲しいということではなくて、ボランティアを入れたいので、こんなスペースを準備して欲しいというような提案が必要となる。

委員：現状の中庭は見る為のものだと思っていた。中に入れるとは思っていなかった。

委員：眺めるものではなく、使える庭を作る必要がある。

委員長：市政情報コーナーはもっと入りやすくして欲しい。また、この機能は市役所に必要だとは思いますが、図書館にもある。もっと本気で調べたい人は図書館に行くであろう。もう少し使ってもらえるような工夫が必要であろう。

委員：1階に議場がある庁舎の様に、見える形をどんどん作って行って、その中の一連として情報コーナーがあり、開かれた庁舎のアピールとなればよいと思う。

委員長：情報としては一元化した方がよいと思う。そうすることにより充実するのでいろいろな人が利用する可能性が高くなる。

委員：入れ物を作って魂入らずでは困る。職員教育を徹底すれば親切が生まれる。そうなれば来庁舎に徹底してサービスをしようということが自然と出てくる。そういった教育を是非徹底してもらいたい。

委員長：キッズコーナーは、お子さんがいる方にとっては重要。単純に置いておくことと重点的に充実させることがあると思われる。例えば近くに子供を預けるようなところが少なければ、もっと充実させた方がいいとか、近くにあるから充実させる必要はないとかが考えられるがどうか。

委員：実現は難しいと思うが、駅から近いので24時間保育の様な事をする事も考えられる。仕事に行く前に子供を預けて帰ってきたときに子供を受け取れることができたら良い。

委員：庁舎においてキッズコーナーは、市役所に来た方が、住民票などを受け取る間に子供たちを遊ばせておくスペースであると捉えている。遊具などの消毒に配慮が必要と考える。

委員長：託児施設については、駅での保育ステーションも含め、市でも検討されているようなので、引き続き検討をお願いしたい。

#### 4. その他

次回の委員会について

第3回

◇開催日程：平成27年 8月18日(木) 13:30から

◇場所：深谷市本庁舎3階委員会室

#### 5. 閉会

〔配布資料〕

- ◆ 次第
- ◆ 資料 1 第 1 回会議で頂いた意見について
- ◆ 資料 2 新庁舎に求められる役割と機能について
- ◆ 資料 3 新庁舎の必要規模（算定方針）について
- ◆ 別紙-1 総務省基準に基づく新庁舎の面積算定
- ◆ 別紙-2 国土交通省新営一般庁舎面積算定に基づく新庁舎の面積算定
- ◆ 資料 4 現庁舎における市民利用スペースの設置状況について  
他自治体の事例について
- ◆ <参考> 深谷市ボランティア交流センター
- ◆ 資料 5 第 1 回深谷市新庁舎基本計画検討有識者会議 議事録
- ◆ 深谷市都市計画マスタープラン
- ◆ レンガ奨励金パンフレット